

戦後日本資本主義の基本構造/構成 外からの資本主義発展の道

国民国家「宥解」=EU形成時代においてアジアに残された唯一の資本主義の道

(国民経済の「完結」性の弛緩・解体

アジア資本主義の起動 (アジア NICs→中国沿海部)

89/91年「社会主義」体制解体
91年外生循環Ver.2=機能不全

71年金ドル交換停止
ME自動化=合理化
外生循環Ver.1

65年外生循環起動開始

輸出競争力強化のためのコストダウン・海外生産 1990年代初頭～
「強制輸出」=外需依存 (外生循環構造)



1970年代初頭成立
外生循環構造Ver.1

限界 非正規雇用
労働力の海外通帰

海外

外生循環構造Ver.2

外生循環内部構造 II 対米従属

冷戦構造→冷戦体制
外・上からの
工業生産力移植
労働対象・労働手段

③ 横波の衝撃 第2波
中国革命・50年中ソ同盟・朝鮮戦争

地価高騰

「含み益」経営土地投機【基盤】零細土地所有(土地持ち労働者/農民零細農耕)

③ 外資導入

② 横波の衝撃 第1波

米占領軍
財閥解体
農地改革
労働改革

③ 間接金融の系列融資原資
架空・兼制 ↑ 資本転化
(土地持ち労働者新所有 1000万人)
② 零細・分割 土地所有
① 財産税

小作地 (46%→0.9%) 農業生産力一時浮揚
擬似封建的性格 (資本面)

資本 ↓ 土地所有

③ 低廉・剝削・勤勉な労働力

賃労働

農家経営 (近代農業) 未成立
(零細農地・新所有 252万戸=475万人)
1950年農民 1700万
農家収入賃金相互補填関係
(農業の自立不可・農工格差)

擬似封建的性格 (労働面)

外生循環内部構造 II 三層格差

戦後日本資本主義の基盤